

授業科目（エンドオブライフケア(2年後期/演習科目)

到達目標	1. 我が国のターミナル期のケアの現状と課題が分かる。 2.ターミナル期の病態と特徴、死の定義について説明できる 3.ターミナル期にある人の療養環境と社会資源活用がわかる 4.死にまつわる患者への倫理的配慮の様々な場面について想起できる 5.ターミナル期における代表的緩和方法を説明できる 6.看取りが近づいている徴候と死後の家族への心理的支援の必要性が説明できる。 7.ターミナル期にある成人期や老年期にある対象者とその家族の看護について、学びを通して、自身の死生観の変化について事例を通して考えることができる 8.ターミナル期にある子ども(幼児期・学童期・思春期)にある対象者とその家族の看護について、学びを通して学生の死生観の変化について事例を通して考えることができる 9.グループでの演習を通して、意見を述べたり、メンバーの意見を聞いたり、まともに参加できたり、事前準備をして参加ができる。
------	--

		レベルA 点数 (10点)	レベルB 点数 (8点)	レベルC 点数 (5点)	レベルD 点数(4点)	評価
知識・理解	1. 我が国のターミナル期のケアの現状と課題が分かる。	ターミナルケアの定義や概念の2つを学生の言葉を用いて説明できる。	ターミナルケアの定義や概念の2つを7割程度学生の言葉を用いて説明できる。	ターミナルケアの定義や概念の2つを、少し～半分程度学生の言葉を用いてを説明できる。	ターミナルケアの定義や概念をほとんど説明できない。	
	3.ターミナル期の病態と特徴、死の定義について説明できる	ターミナル期の病態と特徴、死の定義の3つについて、専門用語を用いて明確に説明できる	ターミナル期の病態と特徴、死の定義について、7割程度専門用語を用いて説明できる	ターミナル期の病態と特徴、死の定義について、少し～半分程度専門用語を用いて説明できる	ターミナル期の病態と特徴、死の定義について、ほとんど説明できない	
	3ターミナル期にある人の療養環境と社会資源活用がわかる	ターミナル期にある人の療養環境と社会資源活用について、専門用語を用いて明確に説明できる	ターミナル期にある人の療養環境と社会資源活用について、専門用語を用いて7割程度説明できる	ターミナル期にある人の療養環境と社会資源活用について、少し～半分程度専門用語を用いて説明できる	ターミナル期にある人の療養環境と社会資源活用について、ほとんど説明できない	
	4.死にまつわる患者への倫理的配慮の様々な場面について想起できる	死にまつわる患者への倫理的配慮の様々な場面について6個以上上げることができる	死にまつわる患者への倫理的配慮の様々な場面について、4～5個あげる	死にまつわる患者への倫理的配慮の、様々な場面について、2～3個あげる想起できる	死にまつわる患者への倫理的配慮の、様々な場面について、0～1個あげる	
	5.ターミナル期における代表的緩和方法を説明できる。(①トータルペインと疼痛マネジメント②補完代替療法③倦怠感の症状マネジメント)	ターミナル期における代表的緩和方法を3個すべてを専門用語を用いて、わかりやすく説明できる。	ターミナル期における代表的緩和方法を3個すべてを、7割程度専門用語を用いて説明できる。	ターミナル期における代表的緩和方法を3個すべてを、少し～半分程度専門用語を用いて説明できる。	ターミナル期における代表的緩和方法を3個すべてを、専門用語を用いて殆ど説明できない。	
	6.看取りが近づいている徴候と死後の家族への心理的支援の必要性を説明できる。	看取りが近づいている徴候と死後の家族への心理的支援の必要性を、専門用語を用いて明確に説明できる	看取りが近づいている徴候と死後の家族への心理的支援の必要性を、専門用語を用いて7割程度説明できる	看取りが近づいている徴候と死後の家族への心理的支援の必要性を、専門用語を用いて少し～半分程度説明できる	看取りが近づいている徴候と死後の家族への心理的支援の必要性を、専門用語を用いて殆ど説明できない	
論理的思考および探究	7.ターミナル期にある成人期や老年期にある対象者とその家族の看護について、学びを通して、自身の死生観の変化について事例を通して考えることができる	ターミナル期にある成人期や老年期にある対象者とその家族の看護について、学びを通して、自身の死生観の変化を学生の言葉を用いて、明確に説明できる。	ターミナル期にある成人期や老年期にある対象者とその家族の看護について、学びを通して、自身の死生観の変化を、学生の言葉を用いて7割程度説明できる。	ターミナル期にある成人期や老年期にある対象者とその家族の看護について、学びを通して、自身の死生観の変化を、学生の言葉を用いて少しから半分程度説明できる。	ターミナル期にある成人期や老年期にある対象者とその家族の看護について、学びを通して、自身の死生観の変化を、学生の言葉を用いて殆ど説明できない。	
	8.ターミナル期にある子ども(幼児期・学童期・思春期)にある対象者とその家族の看護について、学びを通して学生の死生観の変化について事例を通して考えることができる	ターミナル期にある子ども(幼児期・学童期・思春期)にある対象者とその家族の看護について、学びを通して学生の死生観の変化について、学生の言葉を用いて、明確に説明できる。	ターミナル期にある子ども(幼児期・学童期・思春期)にある対象者とその家族の看護について、学びを通して学生の死生観の変化について、学生の言葉を用いて7割程度説明できる。	ターミナル期にある子ども(幼児期・学童期・思春期)にある対象者とその家族の看護について、学びを通して学生の死生観の変化について、学生の言葉を用いて少しから半分程度説明できる。	ターミナル期にある子ども(幼児期・学童期・思春期)にある対象者とその家族の看護について、学びを通して学生の死生観の変化について、学生の子度はを用いて殆ど説明できない。	
態度・指向	9. 態度・指向性：グループ演習の参加と振り返り	適切に自分の役割を把握し、積極的かつ柔軟な態度で講義内容や授業内の議論に参加している	講義内容や授業内の講義に関心をもち、積極的に参加している	講義内容や授業内の議論をこなしている感覚が強い	講義内容や授業内の議論に関心が見られず、やらされている感覚をもつ	
		講義内容や自身の授業態度に対して、客観的に振り返ることができ、頻繁に積極的な質問を行う。	講義内容や自身の授業態度に対して、客観的に振り返ることができ、時には質疑を行う	学びの方向性については感じているが、講義ないようや自身の授業態度に対して、客観的に振り返ることが不十分である	ほとんど振り返りや質疑を行わず、学びの方向性がみえない	